



# 墨田区

|         |                      |
|---------|----------------------|
| 面積      | 13.77km <sup>2</sup> |
| 世帯数     | 168,520世帯            |
| 人口      | 285,784人             |
| (うち外国人) | 15,960人              |
| 予算      | 1,373億円              |
| 職員数     | 1,924人               |



江戸幕府八代将軍徳川吉宗が植えたと言われる墨堤の桜は、地域の人々によって現在に受け継がれています。



葛飾北斎の作品の紹介や北斎とすみだの関わりを伝えるすみだ北斎美術館が、平成28(2016)年11月に開館しました。



平成24(2012)年5月に開業した東京スカイツリー®を核として、賑わいのあるまちづくりが進んでいます。

## 歴史・見所・名所

墨田区は、昭和22(1947)年3月15日に、北部区域の向島区と南部区域の本所区が統合され、誕生しました。区名は、昔から広く人々に親しまれてきた隅田川堤の通称“墨堤”の呼び名の「墨」と、“隅田川”の名の「田」の2字を選んで名付けられました。

区内には、墨堤の桜、隅田川花火大会、大相撲、伝統工芸、史跡などの伝統文化が数多く残されており、江戸からの伝統が引き継がれている墨田区ならではの「下町情緒」がまちの至る所に感じられます。

さらに、区内で活躍した文人墨客も数多く、碑なども多数存在するほか、平成28(2016)年11月には、墨田区で生まれた葛飾北斎を顕彰する「すみだ北斎美術館」が開館しました。

また、世界一の高さ(634m)の自立式電波塔である東京スカイツリー®の開業後、その周辺地区の整備や隅田川を中心とした水辺空間の再整備・有効活用を進めたことで、東京東部地域の一大観光拠点となり、国内外から多くの来客で賑わいをみせています。

## 概要

### 地理

墨田区は、東京都の北東部に位置し、東は旧中川を境に江戸川区、西は隅田川を境に荒川・台東・中央区、南は北十間川・横十間川・堅川などを境に江東区、北は旧綾瀬川を境に足立区、荒川を境に葛飾区に接するなど、その周囲の多くを水辺に囲まれたまちです。区域は東西4.77km、南北6.12kmと南北にやや長く、面積は13.77km<sup>2</sup>です。地形的には、海拔最高4m、最低マイナス1.2mの平たんな低地で南西部から北東部にかけてゆるやかに傾斜しています。

### 人口推移

戦後における墨田区の人口は、国勢調査によると昭和35(1960)年の33万人余をピークに平成7(1995)年の21万人余まで一貫して減少傾向が続きました。しかし、その後の人口の都心回帰などを背景に増加に転じ、令和5(2023)年2月には、外国人を含む住民登録人口が28万人を超えました。

### 区の特性・特徴

墨田区は、隅田川をはじめ豊かな水辺に恵まれた、江戸の歴史や文化が薫るまちです。また、下町らしい地域コミュニティが色濃く残り、中小製造業などものづくりのまちの特徴も有しています。

## 主要課題

### (1)「暮らし続けたいまち」の実現

人口が増加する一方、小さな子どもを持つファミリー層の転出が超過傾向にある本区の現状を踏まえ、子育て世代にとって「住みたいまち」となることが求められています。このことから、子ども・子育て支援の徹底整備や、知・徳・体が充実する教育の展開、緑豊かな公園整備など、子育てや交流しやすい住環境づくりを行う必要があります。

また、災害に強いまちづくりや、誰もが自分らしく暮らせる仕組みづくりなど多様化する地域課題の解決には、「地域力」のさらなる向上が求められています。このことから、様々な主体が連携した地域の災害対応力の向上などによる、安全・安心なまちづくりとともに、支援を必要とする人への多様な福祉サービスの提供や、地域コミュニティの担い手の発掘・育成や連携する仕組みをつくる必要があります。

### (2)「働き続けたいまち」の実現

全国有数の「ものづくりのまち」である本区でも、近年、事業者数が減少傾向にあることから、区内産業の技術・技能の承継や新たな時代に対応した展開が求められています。また、仕事と子育てを両立できる仕組みや、若者の就業意欲の醸成も課題です。このことから、人材育成、産業集積、すみだのものづくりのプロモーションを通じて、産業をさらに活性化し、次世代につなげていくほか、ワーク・ライフ・バランスがかなった環境づくりや、誰もが個々の能力やライフスタイルに合わせ、働きがいをもって就労できるような支援や環境づくりを行う必要があります。

### (3)「訪れたいまち」の実現

地域に人が訪れることは交流を生み、外部から新しい知見や資金を地域にもたらします。「ものづくり」を活かした観光と産業を結びつけるなど、本区の個性を活かしたまちづくりを行うことが求められています。このことから、豊かな水辺など本区の持つ資源を活用した「すみだらしさ」に触れることができるまちづくりや、ものづくり・歴史・文化を活かした誘客につながる取組みを行い、すみだを訪れるファンを増やすほか、ビジネスや団体の活動に区内外の様々な人が関わる仕組みづくりを行う必要があります。



夏の風物詩である隅田川花火大会では、毎年90万人以上もの人が、夜空を彩る絢爛な花火の競演に酔いしれます。



国技館5千人の第九コンサートは、墨田区の「音楽都市づくり」を象徴するコンサートとして毎年2月に開かれています。

## 将来像

本区では、「墨田区基本構想」(平成 17 (2005) 年 11 月策定)で掲げるまちづくりの基本理念である「～水と歴史のハーモニー～人が輝く いきいき すみだ」を、本区で活動するすべての人々が共有し、一緒に力を合わせて魅力や活力ある「すみだ」をつくるため、「協治(ガバナンス)」によるまちづくりを進めています。

この基本構想に掲げた将来の姿の実現に向けて、平成 28 (2016) 年 6 月には、「墨田区基本計画」を策定しました(令和 4 (2022) 年 4 月に中間改定)。基本計画では、「すみだで暮らす人、働く人、訪れる人の夢や希望がかなえられている状態」を「すみだの夢」と定義しています。施策全体をけん引する「“夢”実現プロジェクト」をはじめとするさまざまな取組みを展開することで、この夢を達成し、本区が「どこよりも素敵で魅力的なまち」となることをめざしています。

また、本区は令和 3 (2021) 年 5 月に内閣府より「SDGs 未来都市」と「自治体 SDGs モデル事業」に選定されました。「誰一人取り残さない」社会をめざし、人と人がともに支えあう持続可能な「すみだ」の実現に向けた取組みを進めていきます。